

國學院大學學術情報リポジトリ

ネットニュースにおける接続表現の使用状況について：経済記事を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 国学院大学日本語教育研究会 公開日: 2025-07-02 キーワード (Ja): ビジネス日本語, 接続表現, ネットニュース, 経済記事, 通信ニュース キーワード (En): 作成者: 許, 夢君 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001735

ネットニュースにおける接続表現の使用状況 について —経済記事を中心に—

許夢君

【キーワード】 ビジネス日本語、接続表現、ネットニュース、経済記事、通信ニュース

1. はじめに

接続表現は会話や文章でよく使われる表現の一つであり、聞き手あるいは読み手に内容を正確に理解させる機能を持っており、ニュースの構成の上でも重要な表現である。金庭（2000）は日本語母語話者と日本語学習者を対象に、「TV ニュースの聞き取り調査」を行って、「母語話者のレベルに到達するには、接続表現を利用した聴解練習が必要ではないだろうか」と述べている。

ビジネス場面においても多用されている表現であり、営業・販売に関する仕事をして、客に自社製品を紹介する時や取引先に企画案を説明する時、上司として部下業務を指示する・説明する時、効果的に接続表現を使って、順序立てて説明したり書いたりすることが重要である。特に、外国人日本語学習者にとっては、ビジネス場面で接続表現を正しく理解して使わないと、文脈の理解・論述に困難が生じる可能性があり、取引先に信用できないという印象を与えて誤解させる恐れもある。ことにビジネスに関する情報を手に入れる手段として、ニュースの視聴は重要である。

時代が進み科学が発展するにつれて、ニュースへのアクセスの方法も変わってきており、新聞やテレビ以外に、スマートフォンでニュースを読む方式も読み込みが早いことと話題

性が高いニュースを自動的に集めて配信されているのを閲覧できることで人気になっている。

そこで本稿では、ネットニュースの経済記事を対象として、その接続表現の使用状況について調査を行う。

2. 先行研究

2-1 接続表現について

2-1-1 接続表現の定義と範囲について

日本語の接続表現について、佐久間（1991）は次のように定義している。

「接続表現」とは、文章論における「接続語句」に当たるものであるが、品詞論における「接続詞」「接続助詞」や構文論における「接続語」「接続句」に対する用語であって、その取扱い範囲のやや広いものである。文字資料のみならず、音声資料における「つなぎ語」一般を対象として考えると、いわゆる「接続語句」と比べても、さらに範囲が広い。接続詞に類する働きを持つ副詞の表現や名詞的表現、連語の表現、句・節・文レベルの表現形式までが含まれることになる。（9 頁）

鷺崎他（1992）は情報提供の異なる分野の文章で用いられる接続表現の種類やそれが導く連接関係を分析して、調査対象とする接続表現を「接続詞／接続助詞／動詞、形容詞等の連用中止表現／連接関係の指標となる形式名詞／連接関係の指標となる名詞（＋格助詞）／連接関係の指標となる副詞」の 6 つとしている。

奥山（2001）は従属節と主節の結合式を「接続表現」と呼んでいる。

姚（2004）は接続表現に「接続詞・接続助詞・用言の連用形・一部の副詞・補語や状語になれる慣用文型・語気」の 6 つが含まれると述べている。

深川（2007）では、接続表現について「文と文あるいは節と節の間に位置して、それらの意味内容を関係づけ、より大きい意味のまとまりとして結びつける言語形式である、「接続詞」、「接続助詞」、「述語の活用形」を分析対象とし、これらをまとめて「接続表現」と呼ぶことにする」と述べている。

これに対して、石黒他（2009）は接続表現について以下のように述べている。

接続表現とは、いわゆる接続詞のことで、おもに文頭に立ち、先行文脈を踏まえて、後続文脈に来る内容を予告し、読み手の理解を助ける表現の総称である。……接続詞は品詞論上の概念であり、隣接する品詞との境界線を引くのに厳密な議論を必要とするからである。

たとえば、「とくに」や「さらに」が接続詞なのか副詞なのかということは、その判断がきわめて難しい。また、接続詞という名称を用いると、「それにもかかわらず」や「換言すると」のような接続句が入るかどうかとも議論の対象になりかねない。そこで、接続表現という名称を用いることにする。(73 頁)

上記のように、「接続表現」の定義について従来の研究では範囲に相違が認められる。奥山(2001)以外の研究では、「接続詞」と「接続助詞」にも言及している。「接続詞」と「接続助詞」は接続表現を研究する上で重要な役割があると考えられる。さらに、石黒(2018)は「接続表現は、接続詞と重なる部分が多いが、接続詞と区別する、あるいは接続詞という名称を避ける場合に接続表現と呼ばれることが多い」と述べている。なぜ接続詞と呼ばないかについて、以下4つの立場で説明している。

- A 接続詞という品詞を認めない立場
- B 接続詞の機能を重視する立場
- C 接続詞相当の語結合を含める立場
- D 接続詞と接続助詞を一括する立場

どこまでを接続表現と呼ぶかについてこれらの4つの立場から、石黒(2018)は接続詞以外、先行部と後続部の関係を表示する副詞、接続詞相当の慣用的な語結合、接続助詞も接続表現に含まれると述べている。本稿では、石黒(2018)に基づいて、①接続助詞②接続詞③接続機能を持つ他品詞④接続機能を持つ慣用的な語結合の4つを調査対象とする。

2-1-2 接続表現の分類方法について

佐久間(1990)は市川(1978)に基づいて、「接続表現」を以下のように整理している。

文の連係関係を「A 論理的結合関係 (1. 順接型 2. 逆接型) B 多角的連続関係 (3. 添加型 4. 対比型 5. 転換型) C 拡充的合成関係 (6. 同列型 7. 補充型 8. 連鎖型)」の3類8種に分けている。さらにその8種を「順接型」(①順当②きっかけ③結果④目的)、「逆接型」(⑤反対⑥背反⑦意外)、「添加型」(⑧累加⑨序列⑩追加⑪並列⑫継起)、「対比型」(⑬比較⑭対立⑮選択)、「転換型」(⑯転移⑰推移⑱課題⑲区分⑳放任)、「同列型」(㉑反復㉒限定㉓置換)、「補充型」(㉔根拠づけ㉕制約㉖補充㉗充足)、「連鎖型」(㉘連係㉙引用関係㉚応対㉛提示的表現との連鎖)のそれぞれ31項目に細分化している。

また、佐久間(1990)は接続表現にかかわる中心文の機能として話題を「1. 開始・2. 展開(a. 続ける b. 変える c. さしはさむ d. もとに戻す e. さえぎる f. うながす g. 言い換える)・3. 終結」の3類10種に分類している。

鷲崎等(1992)は接続表現を連接関係に基づいて「背景・前提・連係・補充・逆接・序列・転換・結果・対比・並列・追加・累加・目的・理由・比較・呼応・限定」の17種類に分けて分析している。

西（1998）は「順接型・逆接型・添加型・対比型・転換型・同列型・補足型」の7種類に分類して日本語と英語の新聞の社説における接続表現について考察している。

馬場（1999）も「順接・逆接・添加・対比・転換・同列・補足」の接続類型によって接続表現の省略について考察している。

奥山（2001）は従属節と主節の結合式を接続表現と呼んで、「副詞節・中止節・並列節・時間節・接続節・条件づけの節（条件節・逆条件節・理由節・目的節）」に分類して考察している。

呉（2007、2008）は「逆接の接続表現・因果の接続表現・継起の接続表現・条件の接続表現」によって、会話場面における接続表現の使用について分析している。

桶谷（2021）は新聞社説における接続表現について文脈の展開機能によって、「A 話題展開機能（a 話題を示す機能）・B 話題継続機能（b1 話を加える機能 b2 話を深める機能 b3 話をつなぐ機能 b4 話を拒む機能 b5 話を比べる機能 b6 話を変える機能 b7 話をまとめる機能）・C 話題終了機能（話題の結論を示す機能）」に分類して分析している。

以上のように、佐久間（1990）と桶谷（2021）は接続表現にかかわる文の機能について分類しているが、それ以外の研究は、ほぼ接続表現自体の機能に関する分類である。本稿では接続表現の全体的な使用実態に関して調査を行うので、今回は接続表現自体の機能に注目する。

2-2 新聞社説における接続表現に関する研究

鷲崎他（1992）では「説明文」「案内文」「新聞記事」を対象として情報提供文と新聞論説文を比較して接続表現の特徴を分析して、新聞記事では「で」の使用頻度が一番高く、接続関係の中で「連係」の使用頻度が1位であることを指摘している。

西（1998）では1991年8月から12月に掲載された『朝日新聞』の社説の中からの100文章（対象1と呼ぶ）と1992年6月に掲載された『朝日新聞』の社説56文章（対象2と呼ぶ）を研究している。対象1も対象2も「逆接型」が1位で「添加型」が2位であり、転換型の出現率をもっとも低かった。表現別に見ると「しかし」「だが」「また」の順に出現率が高い。

石黒（2009）は接続表現のジャンル別出現頻度について新聞の社説・新聞のコラム・論文・エッセイ・小説・シナリオ・講義の7種類を対象として調査し、接続表現数の割合が、「新聞社説」は4位で、新聞コラムは6位であるという。接続表現の種類別出現頻度は、「新聞社説」も「新聞コラム」も逆接の接続表現の頻度が一番高く、社説で「しかし」が1位、「だが」が2位であるのに対して、コラムは逆で「だが」が1位、「しかし」が2位であると指摘している。

桶谷（2021）では『読売新聞』と『朝日新聞』から10文章ずつ選び、逆接を表す「が」の使用率が一番高く、「が」を「話を比べる機能」に分類して、「(1) 前の話の例外、部分的

に反する内容を述べることで前の話の内容を弱め、問題点や課題を示したり、(2) 前の話を認めつつも、さらに重要で強調したい話を示したり、(3) 前の話と時間的・空間的に対照的な話を示す」の機能を持つと指摘している。さらに、「日本語は、各機能の接続表現が段落の開始箇所に用いられ、新しい段落の開始を明示する働きが強い」と指摘している。

上記の先行研究のうち、鷺崎他（1992）以外の研究はいずれも逆接の接続表現が多く、「しかし、だが、が」の三つの接続表現の使用が目立っているようである。

2-3 調査対象と調査方法

2-3-1 調査対象

本稿の調査対象は、経済中心のネットニュースに使用される接続表現である。接続表現とは、文と文、段落と段落の論理的なつながりを示し、情報の流れを明確にするための表現である。本稿では、石黒（2018）に基づいて、①接続助詞②接続詞③接続機能を持つ他品詞④接続機能を持つ慣用的な語結合の4つを調査対象とする。

2-3-2 調査方法

調査対象とした接続表現の使用傾向を把握するため、以下の手順で調査を行った：

1. 記事の収集

調査資料として、以下の二つのニュースサイトから経済関連の記事を収集した：

・Yahoo!ニュース（経済総合）：ビジネススキル、商品、為替、通信の4つのテーマに関連する13本の記事

・NHKニュース（通信）：2024年7月に配信された経済関連ニュースの10本の記事

2. 接続表現の抽出

抽出対象とする接続表現は、先行研究に基づいて分類された4つのカテゴリに従って例文で分析する。

- ・順接：原因と結果を示す（「から」「そのため」など）
- ・逆接：対比や反論を示す（「が」「しかし」など）
- ・並列・追加：情報の並列や追加を示す（「さらに」「および」など）
- ・説明・補足：前述の内容を説明・補足する（「つまり」「ようするに」など）

3. データの整形と分析準備

抽出した接続表現の出現箇所をテキスト化し、Excelに入力し、記事番号、接続表現、カテゴリ、文脈（前後の文）、出現回数の項目で整理する。

4. 分析

・定量分析：各接続表現の出現頻度を集計し、カテゴリ別およびニュースサイト別に比較する

・定性分析：抽出した接続表現の用例を具体的に取り上げ、例文を参照しながら接続表現がどのように使われているかを検討する。

3. ヤフーニュースについて

3-1 調査資料

Yahoo!ニュース（ヤフーニュース、以下「ヤフー」と略称する）は、日本の企業LINE ヤフーが運営するポータルサイト『Yahoo! JAPAN』のニュースサイトであり、記事等の提供社が 756 個あり、日本国内や海外のニュース・話題を提供するウェブサイトである。本稿では、Yahoo!ニュースの「経済総合」における 2023 年 11 月 17 日から 2023 年 11 月 20 日までに掲載された 13 記事を調査資料とする。

ヤフーニュースの「経済総合」には、様々な種類があるが、今回は「ビジネススキル」「商品」「為替」「通信」の 4 種類の記事から 1800 字程度の記事を抽出して、それぞれについて調査して、各種類の記事に「接続表現」の使用実態・傾向について分析する。

3-2 調査結果

以下掲げる表 1 によると、「商品」に関する 2 件の記事には「接続表現」の用例が見られない。「為替」に関する 1 件の記事には「接続表現」の用例が 5 例見られる。「ビジネススキル」に関する記事も 1 件であるが、「接続表現」に関する用例が 46 例見られ、圧倒的に多い。8 件の「通信」に関する記事には、「接続表現」の用例数が 11 例見られる。

表 1 ヤフーの記事一覧

番号	記事種類	配信日時	タイトル	配信元	文字数	用例数
1	商品	11/17(金) 6:54	カルディ、2024 年の「福袋」 全 5 種を発表内容は？	Fav-Log by ITmedia	1583	0
2	為替	11/17(金) 6:59	NY 市場サマリー (16 日) ダ ウ小反落、ドルはぼ横ばい、 利回り 2 カ月ぶり低水準	ロイター	1853	5
3	通信	11/18(土) 16:53	ソフトバンク 固定電話で 通信障害 東日本の広範囲 で	テレビ朝日系 (ANN)	244	1
4	通信	11/18(土) 16:55	ソフトバンク 固定電話で 通信障害 復旧の目途立た ず	テレビ朝日系 (ANN)	187	1
5	通信	11/18(土) 17:18	ソフトバンク、東日本で固定 電話サービスに障害… 1 1	読売新聞オンラ イン	241	0

			0 番や 1 1 9 番などにも影響			
6	通信	11/18(土) 17:55	ソフトバンク 固定電話サービスで通信障害 東日本エリア	FNN プライムオンライン	112	1
7	通信	11/18(土) 18:32	ソフトバンクの固定電話で障害 110 番などの緊急通報にも影響	TBS NEWS DIG Powered by JNN	219	1
8	通信	11/18(土) 18:35	ソフトバンクの固定電話で通信障害	共同通信	95	2
9	通信	11/18(土) 19:07	ソフトバンク固定電話で障害 数十万回線、緊急通報にも影響か	共同通信	301	3
10	通信	11/18(土) 20:50	ソフトバンク通信障害、数十万回線に影響か	共同通信	82	0
11	商品	11/19(日) 3:00	マクドナルド「チキンマックナゲット 15 ピース」710 円→490 円特別価格で期間限定販売	食品新聞	290	0
12	ビジネススキル	11/20(月) 6:22	なぜダメ上司ほど「まず経験させ反省させる」教え方しかできないのか？	横山信弘	1833	46
13	通信	11/20(月) 10:33	ソフトバンク、また通信障害 東日本の固定電話、19 日復旧も	共同通信	263	2
合計			13	9	7383	62

以下表 2 は各接続表現の用例数に関する表である。その中には、「たり」「ても」は 9 例で一位になり、「ば」は 8 例で 2 位になっている。

表 2 ヤフーの接続表現の用例数

順位	接続表現	用例数
1	たり、ても	9
2	ば	8
3	たら	5

4	から、まずは、または	3
5	そのため、ので、のに	2
6	が、さらに、しかし、しかしながら、すると、そして、ただし、だって、 ために、ちなみに、では、ながら、なら、まず、ものの、一方	1
合計	26	62

表 1 によれば、4 種類のニュースにおける「接続表現」の使用傾向が多少伺えると思われる。以下、例文を掲げながら検討を加える。

「商品」では、客としての読者に商売物を説明・推薦することが目的であり、理論的な内容は避けて簡潔な表現が求められていると考えられる。このことが、接続表現が使用されない原因の一つではないと思われる。

例文 1 オリジナル商品や人気商品などが入った「食品福袋」

「食品福袋」(4500 円)の中身は、福袋限定のオリジナル商品や和食材ブランド「もへじ」の干支商品、カルディコーヒーフアームの人気商品など約 20 点。丈夫なキャンバス生地のとートバッグには便利な内ポケットと外ポケットが、開け口はファスナーが付いており、安心して荷物をしまえるようにした。とートバッグのサイズは 24 センチ(縦)、20 センチ(横)×12 センチ(マチ)。持ち手は 30 センチ。

実店舗、オンラインストアともに事前抽選販売を予定。実店舗では公式アプリにて事前抽選を実施し、申し込み期間は 11 月 22 日～12 月 5 日。当選発表は 12 月 15 日で、受け取り期間は 24 年 1 月 1～3 日。オンラインストアでは 11 月 22～30 日に申し込みを受け付け、抽選発表は 12 月 2 日と 7 日。24 年 1 月 1 日より順次発送する。(表 1ー

1 下線部筆者)

例文 1 において下線部では、述語が省略されている。「接続表現」は先行文脈を受けて後続文脈と結んで前後の関係を表すもので、例文 1 のように述語が省略されれば、「接続表現」を置く場所が限られることになる。

「為替」と「ビジネススキル」に関するニュースは、現象・問題点を読者に説明する必要があるので、ある程度は「商品」に関する記事よりも論理性が高いので、接続表現が使用されていると考えられる。とくに、「ビジネススキル」に関するニュースはビジネス場面でのようなことをすればいいか、どのようなことを避けたほうがいいかについての説明が多いので、教育性を持っている。例えば、

例文 2 経験学習 3 つのデメリット

もちろん、このようなやり方はとても非効率である。経験学習は人材育成においてとても大事な考え方ではある。しかしながら初学者が勉強するにはデメリットのほうが大きい。

経験学習のデメリットを 3 つ紹介しよう。(1)本質を理解するまでに時間がかかる

(2) 考える力が養われない(3) メンタルがやられる

前提知識がないのに、経験を先にしようとすれば、「わからないことが、わからない」という状況からいつまで経っても抜け出せない。

上司から、「わからないことがあれば相談しろよ」と言われても、「わからないことが、わからない」状況なのだから、どうしようもない。

そのため、いつまでたっても本質的な事柄を理解することができないのだ。

前提知識や体系的なノウハウがないので、どう考えたらいいかもわからない。「考えろ」「頭を使え」と言われても、正しく考えられないから「言われないとわからないのか」

さらにダメ出しをされ続けることになる。こんな状態が続けば、誰だって自信を失う。

前提知識がないことが問題なのに、自分の努力不足、頭の悪さに問題があると思ひ込み、最悪の場合には「この仕事は、自分に向いていない」と思ひ込むようになる。

(表 1-12 下線・太字筆者)

のように経験学習のデメリットについての説明は、例文 1 の「商品」に関する記事と比べれば、文の長さがほとんど同じように短い文であるが、接続表現を数多く使って長い内容を受け入れやすいように読者に伝えている。とくに、「しかしながら」「ので」「ても」のような接続表現によって読者の好奇心が引かれて、「そのため」「さらに」によって話題が進められている。

また、興味深いのは 13 記事の中で、「通信」にかかわるニュース（以下「通信ニュース」と呼ぶ）が 9 件であるが、件数が半数を超えても接続表現の用例は 11 例しか見られない。11 例の中で、「たり」に関する例文が 7 例で一番多い。

接続表現「たり」に関する例文は通信障害が発生したあと、固定電話を利用する時の状態についての描写である。例文 3 のように「たり」を 1 回だけを使う例もあり、例文 4 のように「～たり～たり+V」の形で使う例もある。「並列」の機能を持っている。

例文 3 ソフトバンクは 18 日、固定電話サービスの「おとくライン」と「おとく光」で、午後 1 時 46 分頃から、東日本エリアで利用できなくなったり、利用しづらい状況が発生していると発表した。(表 1-8 下線・太字筆者)

例文 4 ソフトバンクは 18 日、午後 1 時 46 分ごろから、東日本で同社が提供する固定電話サービスが利用できなかつたり、利用しづらかつたりする通信障害が発生していると発表した。復旧のめどは立っていないという。(表 1-6 下線・太字筆者)

「または」を使う用例が 3 例あり、「が」の用例が 1 例ある。

例文 5 午後 1 時 46 分ごろから固定電話サービスの「おとくライン」と「おとく光」が利用出来ないまたは利用しにくい状況が続いています。(表 1-3 下線・太字筆者)

例文 6 固定電話サービスの「おとくライン」と「おとく光」が利用できない、または利用

しにくい状況が続いています。(表 1ー4 下線・太字筆者)

例文 7 午後 2 時前から東日本エリアの一部の利用者がサービスを使えない、または使いづらい状況になっているということです。(表 1ー7 下線・太字筆者)

例文 8 一部の地域で復旧したが、残る地域は復旧作業が続いている。(表 1ー9 下線・太字筆者)

接続詞の「または」を使う 3 例は、いずれも通信障害でネガティブな状態になっていることを表す 2 つの文を繋いでいる。ともに前文は「利用できない」状況であり、後文は「しにくい」状況である。つまり「選択」機能を持っている。例文 8 の 1 例は接続助詞の用法であり、「復旧した」に対する「逆接」を表す。

だが、今回のヤフーニュースの通信ニュースは全部通信障害に関する記事であり、結果には妥当性が足りないところがあると思われるので、さらに通信ニュースにおける接続表現の使用状況について検討を加えるために、以下の 4 では NHK ニュースの「ビジネス」場面の通信ニュースを調査資料として深めて考察する。

4. NHK ニュースについて

4-1 調査資料

NHK ニュースは国内外ニュースが掲載され、さまざまな分野のニュース見られるウェブサイトである。本稿では、NHK ニュースのビジネス場面における「「通信」ニュース一覧」から 2024 年 7 月の 1 ヶ月に掲載された 10 文章を調査資料とする。

NHK ニュースの「「通信」ニュース一覧」には、7 月に掲載された記事が 21 件あるが、本稿は経済記事を中心に調査するので、抽出した 10 文章は「ビジネス」カテゴリーに属する記事 8 件と「気象・災害」カテゴリーに属する通信会社が気象災害により影響を受けたことに関する記事 2 件を一括経済記事としての通信ニュースとして調査する。

4-2 調査結果

以下に掲げる表 3 によると、10 件の通信ニュースには、接続表現に関する用例数は 27 例ある。前接の通信ニュース（1774 文字、11 例）の調査結果と比べれば、文字数を考慮すれば接続表現の割合がほとんど同じであるといえる。それは、通信ニュースにおける接続表現の使用が少ない傾向にあると思われる。

表 3 NHK 通信ニュースの記事別の表

番号	配信日時	タイトル	文字数	用例数
1	2024 年 7 月 26 日 17 時 41 分	気象情報「177」サービス 来年 3 月末に終了 NTT 東日本と西日本	253	2

2	2024 年 7 月 25 日 21 時 02 分	郵便事業 昨年度の赤字は約 890 億円 事業効率化が課題	418	3
3	2024 年 7 月 23 日 15 時 54 分	ソフトバンク 通信障害が復旧	245	6
4	2024 年 7 月 19 日 18 時 04 分	電話番号案内「104」終了へ 2026 年 3 月末 NTT 東日本と西日本	512	2
5	2024 年 7 月 18 日 23 時 33 分	「104」の電話番号案内 サービス終了へ NTT 東日本と西日本	342	2
6	2024 年 7 月 16 日 6 時 51 分	相次ぐサイバー攻撃 企業が生産設備への影響食い止める新対策	634	3
7	2024 年 7 月 11 日 19 時 18 分	NTT 東日本と西日本 タウンページ 来年度末めどに取りやめへ	381	1
8	2024 年 7 月 11 日 11 時 39 分	5 月の機械受注 前月比 3.2%減少 基調判断「足踏み」に引き下げ	259	3
9	2024 年 7 月 3 日 4 時 24 分	“データセンターの電力不足懸念” 企業で省エネ取り組み加速	605	3
10	2024 年 7 月 1 日 17 時 44 分	LINE ヤフー “韓国企業との資本関係見直し 短期的には困難”	522	2
合計		10	4171	27

NHK の通信ニュースにおける各接続表現の使用状況について、以下の表 4 にまとめて示す。

表 4 NHK 通信ニュースの用例数

順位	接続表現	用例数
1	と	8
2	が	6
3	一方	4
4	たり、また	2
5	さらに、ただ、でも、でも、ものの	1
合計	10	27

表 4 によれば、接続表現「と」の用例数が 8 例で一番多く、「が」「一方」がこれに次いで 6 例と 4 例である。「たり」「また」が 2 例見られる。「さらに」「ただ」「でも」「でも」「ものの」がそれぞれ 1 例ずつである。以下、用例数が 2 つ以上の接続表現を例文を掲げて考察する。

ヤフーの通信ニュースで使われる接続表現の「または」は NHK の通信ニュースで出現しないが、「また」の例が見られる。以下の例文 9 と例文 10 のように、「また」は段落の最初に置かれ、前段落の内容を受けて、次の段落で他の情報を「補足・追加」する機能を持っている。

例文 9 会社によりますと、原因については引き続き調査中だということです。

また、通話などが利用できない状態が続く場合は、携帯電話を再起動したり、機内モードに設定したあと、解除したりすると状況が改善することもあるということです。（表 3-3 下線・太字筆者）

例文 10 このほかにも NEC のほか、オーストラリアの企業と提携した大和ハウス工業は、サーバーを冷やすための空調設備の効率化や、再生可能エネルギーの活用などによる省エネ型のデータセンターの建設を進めています。

またソフトバンクのほか、データセンターの運営を手がける新興企業のハイレゾは、北海道や九州などに分散化して建設するなど、各社の間で取り組みが加速しています。（表 3-9 下線・太字筆者）

また、ヤフーの通信ニュースで見られる「たり」と「が」の例が NHK の通信ニュースにも見られる。「たり」は 2 例しか見られないが、「が」に関する例文が 6 例あり、6 件の通信ニュースに 1 例ずつ現れる。以下例文を掲げて考察する。

例文 11 通話などが利用できない状態が続く場合は、携帯電話を再起動したり、機内モードに設定したあと、解除したりすると状況が改善することもあるということです。（表 3-9 下線・太字筆者）

「たり」はヤフーの通信ニュースと同じように、「～たり～たり+V」の形で 2 つの「たり」によって「並列」を示している。

「が」は例文 17 以外はいずれも例文 8 と同じように「逆接」機能を持たせている。例 17 は、「が」の先行文脈では従来から「ユニバーサルサービスのあり方についての議論が続けられている」ことを提示しているが、後続文脈には「議論がなくなっている」等のようなことではなく、部長によって今回のサービスの終了についての説明がされたことを述べているのであり、この「が」に見られるのは、「上に述べる語を単に下に続ける関係を示す」機能である。

また、例文 12 から例文 16 までは「ました」に付け、過去の動作・状況と相反する事柄を示した上で、「現在に近い」後の文脈を導いている。

例文 12 気象情報を電話で案内する「177」のサービスは、1955 年に開始され、会社によりますと、記録が残っている 1988 年ごろには、全国で年間 3 億件以上の利用がありましたが、昨年度は、556 万件となっています。（表 3-1 下線・太字筆者）

例文 13 ソフトバンクは、23 日正午すぎから全国的に通信障害が発生し、一部の利用者の間で携帯電話の音声通話が利用できなくなっていましたが、障害が復旧したと午後 2 時すぎに発表しました。(表 3ー3 下線・太字筆者)

例文 14 従来の検知は、過去の攻撃のパターンに基づいて行われていましたが、新たな未知の攻撃のパターンにも対応できるのが特徴です。(表 3ー6 下線・太字筆者)

例文 15 国内の電力需要は、人口の減少や省エネの浸透などを背景に 2007 年度をピークに減少傾向にありましたが、データセンターの建設の増加が影響し、今年度・2024 年度からは増加に転じるという予測もあります。(表 3ー9 下線・太字筆者)

例文 16 電話番号案内は 1890 年に電話交換業務の開始と同時に始まり、1989 年からは「104」で全国の電話番号を案内していましたが、NTT 東日本と西日本はこのサービスを終了することになりました。(表 3ー5 下線・太字筆者)

例文 17 NTT をめぐっては、法律で義務づけられ、固定電話を全国一律で提供するユニバーサルサービスのあり方について総務省の審議会で議論が続けられていますが、今回のサービスの終了について、NTT 東日本サービスの種村則明基盤サービス部門長は、オンラインでの会見で「104 の番号案内サービスは現時点で法令上の提供義務とされていない」と説明しました。(表 3ー4 下線・太字筆者)

用例数が最も多い接続表現「と」について、例文 18 から例文 24 までの 8 つの例文を掲げる。8 例のうちに、例文 18 から例文 23 の例文はいずれも「N+によります+と」の形で出現し、後続文脈に来自話の情報の提供者・出典を示す機能を持ち、例文 23・24 は順接の仮定条件を表している。

例文 18 気象情報を電話で案内する「177」のサービスは、1955 年に開始され、会社によりますと、記録が残っている 1988 年ごろには、全国で年間 3 億件以上の利用がありましたが、昨年度は、556 万件となっています(表 3ー1 下線・太字筆者)

例文 19 日本郵便の発表によりますと、手紙やはがきなど郵便事業の昨年度の営業損益は 896 億円の赤字となりました(表 3ー2 下線・太字筆者)

例文 20 会社によりますと、原因については引き続き調査中だということです。(表 3ー3 下線・太字筆者)

例文 21 情報通信研究機構によりますと、サイバー攻撃に関わる通信は、去年はおおよそ 10 年前の 2014 年と比べて 25 倍に増えていて、14 秒に 1 回、攻撃を受けている計算となります。(表 3ー6 下線・太字筆者)

例文 22 内閣府が発表した企業の設備投資の先行きを示すことし 5 月の「機械受注統計」によりますと、主な機械メーカーが国内の企業から受注した金額は、変動が大きい船舶と電力を除いて 8578 億円と、前の月より 3.2%減少しました(表 3ー8 下線・太字筆者)

例文 23 また、通話などが利用できない状態が続く場合は、携帯電話を再起動したり、機内モードに設定したあと、解除したりすると状況が改善することもあるということです。(表 3-3 下線・太字筆者)

例文 24 内訳を見ますと、製造業は 4237 億円と、前の月より 1.0%増えて 2 か月ぶりに増加する一方、非製造業は通信業からの通信基地局関連の設備やコンピューターの受注が減るなどして、4397 億円と、前の月より 7.5%減って 2 か月ぶりに減少しました。(表 3-8 下線・太字筆者)

接続表現の「一方」は 4 例あり、今回の調査では「が」に次いで 3 位である。用例から見れば、段落の先端において前段落の話題と「対比」機能を持つ用例の他に、例文 27 のように文中で「対比」機能を有する例も見られる。

例文 25 新田哲専務執行役員は「機器の故障とサイバー攻撃を見分ける判断が非常に難しい。現場レベルの対応力の底上げが最大のポイントになる」と話していました。

一方、三菱電機と NTT コミュニケーションズは、AI が通信の量や頻度などからサイバー攻撃を検知する新たなシステムを共同で開発しました。(表 3-6 下線・太字筆者)

例文 26 発行を取りやめたあとも、インターネット版の「i タウンページ」は、提供を続けるということです。

一方、個人の電話番号や住所を掲載した紙の電話帳「ハローページ」は、去年 2 月に発行したものを最後にすでに取りやめています。(表 3-8 下線・太字筆者)

例文 27 内訳を見ますと、製造業は 4237 億円と、前の月より 1.0%増えて 2 か月ぶりに増加する一方、非製造業は通信業からの通信基地局関連の設備やコンピューターの受注が減るなどして、4397 億円と、前の月より 7.5%減って 2 か月ぶりに減少しました。(表 3-8 下線・太字筆者)

例文 28 会社は報告の中で「議論が進展するよう引き続き取り組んでいく」としています。

一方、ネイバーとのネットワークの分離については、再来年 12 月までとしていた完了の時期を再来年 3 月に前倒しする計画を示しました。(表 3-10 下線・太字筆者)

NHK ニュースの「通信」カテゴリーに掲載された経済関連の 10 記事を対象に、接続表現の使用実態を分析した結果、全体で 26 例の接続表現が確認され、最も使用頻度が高いのは「と」(8 例)であり、次いで「が」(6 例)、「一方」(4 例)、「たり」「また」(各 2 例)などが見られる。これらの接続表現は、情報の追加、対比、情報源の提示、仮定条件など、文脈に応じた多様な機能を果たしている。また、文字数に対する出現割合に大きな差は見られず、通信ニュースにおいては接続表現の使用が比較的少ない傾向があることが明らかとなった。

5. まとめと今後の課題

本稿は、ネットニュースにおける接続表現の使用傾向を明らかにすることを目的とし、ヤフーニュースの記事（「ビジネススキル」「商品」「為替」「通信」に関する4種類、各約1800字、計13記事）およびNHK通信ニュースの記事（2024年7月掲載の経済関連記事10件、約4000字）を調査対象とした。得られた結果は以下のとおりである。

・接続表現の傾向

全体として、使用頻度の高い接続表現には「と」「が」「一方」などがあり、特に「が」は逆接を表す機能で多く用いられている。また、「と」は「N+によります+と」の形で情報源を提示する機能を担っており、通信ニュースにおいて多用される傾向が見られた。一方で、全体的な出現数は少なく、ネットニュースにおける接続表現の使用は限定的であるといえる。

・Yahoo ニュースにおける特徴

Yahoo ニュースの記事では、「ビジネススキル」カテゴリにおいて論理性・教育性が高いためか、接続表現の使用が比較的多く確認された。対照的に、「商品」カテゴリの記事には接続表現の使用がまったく見られなかった。これは、文末述語の省略が頻繁に行われていることが一因と考えられる。また、13記事のうち9件を占めた「通信」関連ニュースにおいても、接続表現は11例と少数にとどまり、全体として接続表現の使用が少ない傾向が明らかとなった。

・NHK 通信ニュースにおける特徴

NHK ニュースの「通信」カテゴリー（2024年7月、経済関連10記事）においては、接続表現の使用例が26例確認された。「と」は情報源提示の機能を持つ例が多く、「が」は過去と現在の対比を強調する機能を果たしている。「一方」や「また」も補足・対比などの文脈的關係を示す形で使用されており、Yahoo ニュースと同様に、通信ニュース全体において接続表現の使用頻度が低い傾向が見られた。

・先行研究との比較

接続表現「が」の使用頻度が高い点は先行研究と一致している。一方、「と」の使用については、新聞記事を対象とした従来の研究ではあまり使用頻度が高くないとされているが、鷺崎他（1992）の「料金説明文」に関する調査では最も多く使用されており、本調査における傾向とも一致する部分が見られる。

本調査では、「商品」カテゴリにおいて接続表現の使用が確認されなかったため、今後は対象記事数を増やし、その使用実態をより詳しく明らかにする必要がある。また、ネットニュースは外国人日本語学習者にとって有用な教材であることから、その語法的特徴についても今後さらに検討を加えていきたい。

調査資料

- ・Yahoo! ニュース <https://news.yahoo.co.jp/categories/business>
- ・NHK ニュース <https://www3.nhk.or.jp/news/word/0002418.html>

参考文献

- 石黒圭・阿保きみ枝・佐川祥予・中村紗弥子・劉洋（2009）「接続表現のジャンル別出現頻度について」『一橋大学留学生センター紀要』第 12 号 pp.73-85
- 石黒圭（2018）「接続表現」『日本語学大辞典』東京堂出版 pp.569-571
- 市川孝（1978）『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 奥山和子（2001）「留学生の日本語習得過程における接続表現の分析：作文・文章表現の観察・比較から」『神戸大学留学生センター紀要』第 7 号 pp37-52
- 桶谷潤（2021）「新聞社説における接続表現の日英対照研究 -接続表現の文脈展開機能と段落との関連性-」『早稲田大学大学院教育学研究科紀要：別冊』第 29 号 (1)pp125-136
- 金庭久美子（2000）「学習者は TV ニュースの接続表現をどのように聞いているか」『日本語教育方法研究会誌』第 7 号(1)pp.6-7
- 呉秦芳（2007）「「接続表現」形式に見る 20～60 歳代の日本語母語話者の会話管理：日本語の座談会を資料として」『ニダハ』第 36 号 pp97-106
- 呉秦芳（2008）「会話管理の観点から見た「接続表現」における男女差：『日本語話し言葉コーパス（CSJ）』の「対談」場面分析を中心に」『ニダハ』第 37 号 pp11-20
- 佐久間まゆみ（1990）「文段認定の一基準（II）：接続表現の統括」『文藝言語研究.言語篇』第 17 号 pp35-66
- 佐久間まゆみ（1991）「接続表現の文脈展開機能」『日本女子大学紀要.文学部』第 41 号 pp9-22
- 西由美子（1998）「日英語の新聞社説における接続表現:文の接続をめぐって」『言語文化と日本語教育』第 15 号 pp24-36
- 馬場俊臣（1999）「接続表現の省略可能性について」『札幌国語研究』第 4 号 pp69-74
- 深川美帆（2007）「接続表現から見た上級日本語学習者の談話の特徴-日本語母語話者と比較して-」『言葉と文化』第 8 号 pp253-268
- 姚継中（2004）「论日语“接続表現”的语言行为功能」『日语学习与研究』第 1 号 pp16-19
- 鷲崎誠司・大内幸雄（1992）「情報提供文における接続表現の特徴分析」『全国大会講演論文集』第 44 回(人工知能及び認知科学)pp95-96

—国学院大学大学院博士後期課程—